

◆〈歴史〉選定の観点からみた内容の特色



観点『中学社会 歴史』の特色と具体例

選択、程度、分量

●社会科の目標に照らして、適切な内容が取り上げられているか。	●学習指導要領の「社会科の目標、各分野の目標、内容、内容の取扱い」をふまえ、歴史的分野に必要な社会科の基礎的・基本的な事項が的確におさえられている。典型的な教材への焦点化と学習内容の重点化が的確に図られ、特に、社会の変化や今日的課題が反映された事象を積極的に取り上げることで、生徒の「未来社会を切り拓くための資質・能力」を育むように配慮されている。 →巻頭1～2「私たちにつながる歴史」、第7章3節p.274～281「冷戦の終結とこれからの日本」、p.282「平和と共生を願う人々」、p.283「ともに生きていくために」、p.287～291「歴史学習の終わりに ～歴史を振り返って、未来を構想しよう～」など
●生徒にとってわかりやすく、興味や関心を喚起する内容が選択されているか。	●生徒の日常生活や経験と関連の深い身近な話題・内容が多く取り上げられているほか、巻頭のグラビアページ、巻末資料など、生徒の興味・関心を喚起する写真資料が豊富に盛り込まれ、学が楽しさや意欲が高まるように配慮されている。冒頭には、「歴史にアプローチ」が設けられ、歴史学習の進め方や「歴史的な見方・考え方」（視点や方法）について確認できる構成になっている。また、各章のとびらページや「学習のはじめに」には、図版を大きく掲載し、資料の読み取りを行いながら、章の学習内容を見通すことができるように工夫されている。 →巻頭1～2「私たちにつながる歴史」、p.8～11「歴史にアプローチ」、各章のとびら、各章の「学習のはじめに」など
●生徒の学力向上に対して、どのように配慮されているか。	●全体のページ数や本文の記述量をさらに充実させ、学習内容を詳しく丁寧に扱うことにより、基礎的・基本的な事項の確実な習得が図られるように配慮されている。各章の学習を見通す「学習のはじめに」、本時ページに設けられた「確認／表現」・「THINK!」のコーナーや、「歴史の技」・「歴史の窓」などのコラム、学習を広げたり深めたりする特設ページ、そして単元の最後に取り組む「学習のまとめと表現」のページというように、段階的な学習を通して学力の着実な向上が図られるように構成されている。また、本文中には、資料との関連がわかる資料番号や、前出・後出する関連箇所への参照ページも挿入されるなど、学習を支援するさまざまな工夫がされている。 →p.Ⅱ「教科書の使い方」、p.Ⅲ～Ⅳ「もくじ」、全般
●全体や単元の分量が、適切に設定されているか。	●学校教育法施行規則が定める各分野の授業時数をふまえて編集されており、表現活動をはじめとするさまざまな活動のための時間も十分に確保しながら、充実した学習を進めることができるように、適切に配分されている。特に歴史的分野では、年間授業時数をふまえ、近現代史に重点を置くなど各単元の扱いに軽重をつけることにより、生徒がじっくり追究しながら充実した学習を展開できるように配慮されている。本編については、授業の展開や学習の見通しがつかみやすい「見開き2ページ＝1時間」で構成されているほか、学習指導計画上でもゆとりのある時数が配当され、学校や地域の事情に応じて、特設ページの扱いなどにより弾力的な時数の運用ができるように設定されている。 →本編時数のモデル（第1章：6、第2～4章：55、第5～7章：61、歴史学習の終わりに：3 計125／135）

組織・配列

●単元が学習指導要領に対応し、適切かつ系統的に構成されているか。	●単元構成は、学習指導要領の内容の区分や順序に準拠し、「章・（節）」の配列により、その対応がわかりやすく組織されている。また、節の区分とタイトルから内容のまとまりを捉えやすいように構成されている。「教科書の使い方」ページでは、各章の構成と学習の流れや本文ページの見方・使い方などが紹介され、続く「もくじ」では単元構成と学習内容の全体が一覧でき、学習の位置や見通し、方法を生徒がつかみやすいように工夫されている。各章では、日本と世界の歴史がバランスよく配置され、時代背景を大局的に捉えながら学習できるように構成されている。 ●社会の変化や今日的課題が反映された事象が積極的に教材化されているとともに、そうした変化や課題に自ら対応する資質・能力を育成するという視点から、問題解決的な学習が基調とされている。特に、歴史学習のまとめとしての「歴史学習の終わりに ～歴史を振り返って、未来を構想しよう～」が設定され、より実施しやすく構成されている。 →p.Ⅱ「教科書の使い方」、p.Ⅲ～Ⅳ「もくじ」、p.287～291「歴史学習の終わりに ～歴史を振り返って、未来を構想しよう～」など
●二学期制に対して配慮されているか。	●各分野の単元構成は、前期・後期の二学期にも配分しやすく配列されている。 →全般
●教育基本法および道德教育との関連が、十分に図られているか。	●教育基本法第2条の第1～5号および学習指導要領第3章「特別の教科 道徳」の第2に示された内容について、社会科の目標や学習内容と関わらせた指導を効果的に行うことができるように構成されている。歴史的分野では、「身近な地域の歴史」を調べる学習において、校外学習を行う際に留意すべきマナーにも言及しているほか、歴史の歩みのなかで人々が営んだ職業や、社会生活との関わりについて捉えることができるように配慮されている。 →p.12～18「身近な地域の歴史を調べよう」、p.88～89「働く女性や子どもたち」など
●小・中の接続や生徒の発達段階との関連に関して、どのように配慮されているか。	●教育出版「小学社会 6」のキャラクターが中学生に成長した姿で紙面に登場し、共に学び合う意識が連続するように工夫されている。第1章では、小学校で学習した時代区分や年表の見方を確かめ、人物や文化財を振り返る活動を位置付けている。さらに、「歴史にアプローチ」では、小学校で活用した見方・考え方などを振り返りながら、中学校での歴史学習の進め方や「見方・考え方」のはたらかせ方、資料活用の方法を確認できるように構成され、本編での学習活動に役立つよう工夫されているなど、発達段階に応じて無理なく学習が進められるよう配慮されている。さらに、教育出版「小学社会 6」に登場した歴史上の人物についてはマークで識別できるようにするなどの工夫も図られ、中学校の学習へのスムーズな移行が図られている。 →全般、p.Ⅰ～Ⅳ「キャラクター／マーク・表記の説明」、p.2～7「歴史のとらえ方・調べ方」、p.8～11「歴史にアプローチ」など
●カリキュラム・マネジメントの視点や、地理的分野・公民的分野との分野間の関連について、どのように配慮されているか。	●全体として、分野ならではの「見方・考え方」を明確にし、一貫した編集となっているため、他の分野や教科との横断的・連携的なカリキュラムの立案がしやすい構成となっている。特に歴史的分野では、特設ページの左ページ下に、地理・公民との関連を示す「関連マーク」を付して、学習の連携や振り返りを図る工夫がなされている。各章の「学習のまとめと表現」のページでは、各時代の舞台を地図で確認する地理的な作業活動も取り入れられている。また、第7章の最後には、現代社会の課題と自分との関わりを考察する学習課題が設定され、公民的分野の学習への橋渡しが図られるように構成されている。他教科との関連についても、「歴史にアプローチ」に多面的・多角的な学びの例として示している。 ●日本に受け継がれてきた祭りや芸能、人権の獲得に尽くした人々、民主政治の来歴、グローバル化の進展と異文化交流、地域・社会に参画する人々の事例などが取り上げられ、地理や公民での学習にも生かせるように構成されている。 →p.52欄外「関連」など全般、各章「学習のまとめと表現」、p.180～181「自由民権運動と政党の誕生」、p.176～177「沖縄の歴史を調べよう」、p.178～179「北海道の歴史を調べよう」、p.287～291「歴史学習の終わりに ～歴史を振り返って、未来を構想しよう～」など

観点『中学社会 歴史』の特色と具体例

表記・表現、資料

●記述内容が、正確・公正中立で一貫しているか。	●記述内容が正確・公正中立であることはもとより、中学生の思考や論理展開に整合しており明快である。学習の導入から、課題の設定と追究、まとめに至る構成と記述が一貫しており、学習事項の確実な定着を図ることができる。 →全般
●記述の読みやすさに配慮されているか。	●地名・人名などの固有名詞や社会科特有の用語などには、見開きごとにふりがなを付けるとともに、主要な文字には教育的配慮を施した書体を用いている。文章は平易な表記・表現に徹し、側注には「用語解説」を掲載するなど、読解に負担がかからないように配慮されている。また、巻末のさくいんは、人名と事項に分けて引きやすくするなどの工夫が施されている。 →全般、p.292～294「人名さくいん」、p.295-298「事項さくいん」など
●資料が正確で、効果的に提示されているか。	●社会科学学習に不可欠な写真・イラスト・地図・グラフ・図解などの資料が豊富に掲載され、出典と併せて視覚的に捉えやすく配置されている。本時ページの各資料には、指示しやすいように通し番号を付けるとともに、本文中にも資料との関連がわかるように資料番号が挿入されている。また、巻頭や巻末・とびらのページを有効に活用したレイアウトにより、資料性と学習効果が高まるように構成されている。特に巻末の歴史年表は、原始・古代から現代までの全時代を一覧できる両開きの折込ページで構成され、時代の大きな流れや現在からの時間的距離をつかみやすいように工夫されている。 →全般、巻末2～3「歴史年表」など
●文字や色覚に関して、判読しやすいように配慮されているか。	●視力や色覚に関しては個々の特性があることに留意し、すべての生徒にとって見やすいカラーユニバーサルデザインに基づく紙面づくりがされ、第三者機関CUDOの認証を受けている。文字については誰もが読みやすいユニバーサルデザインフォントによる黒文字を基本とし、白抜き文字や色文字は十分な大きさを確保している。図版資料については、配色とともに形や模様、引き出しなどの表示も工夫することにより、判読しやすいように配慮されている。 →全般
●発行者が管理するウェブサイトは、適切なものであるか。	●章のとびらページに掲載された二次元コードやURLは、発行者が管理する特設のウェブサイトのものである。また、そのリンク先の内容は、省庁や自治体などの公的機関・公立博物館など、教科書のより効率的な活用に資するウェブサイトなどとしており、安全で公正中立なものが精選されている。 →p.19など章のとびらページ全般

学習活動

●社会科において重視される、資質・能力の育成への支援について、どのように取り入れられているか。	●【知識・技能】を育成する学習活動への支援として、本時ページの最後に、学習したことを整理しながらまとめる「確認」のコーナーが設けられ、学習事項の確実な定着が図られるように構成されている。また、本文内に適宜設けられた「歴史の技」のコーナーでは、個人やグループでの活動を通じて、歴史の学習で身に付けたい技能や表現力を養えるよう配慮されている。この「歴史の技」のコーナーは、小学校社会科の振り返りにあたる学習から中学校社会科で身に付けておくことが適切な技能の習得まで、幅広い学習内容の定着に寄与する内容となっている。 ●【思考・判断・表現】を育成する学習活動への支援として、本時ページの最後に、「確認」を受けて学習したことを基に表現する「表現」のコーナーが設けられ、学習事項の定着と活用が図られるように構成されている。また、学習の流れに即して「THINK!」や「Q」のコーナーが適宜設けられ、地図・グラフ・絵・図解などの資料を読み取って考察する学習活動が重視されている。 ●【主体的に学習に取り組む態度】を育成する学習活動への支援としては、例えば歴史的分野の最後のまとめ学習として、「歴史学習の終わりに ～歴史を振り返って、未来を構想しよう～」が位置付けられている。ここでは、今日的な課題とその解決について、SDGs（持続可能な開発目標）達成の観点からも探究・構想し、まとめる活動が取り入れられている。各章の通史学習においても、導入の「学習のはじめに」で資料が大きく掲載され、生徒が自ら資料を読み取りながら、章の学習を見通しをもって進められるように工夫されている。 →【知識・技能】p.23「確認／表現」など各時、p.25「歴史の技：地図を読み解こう」など 【思考・判断・表現】p.75「THINK!」など各所、p.26-資料3「Q」など各所、p.8～11「歴史にアプローチ」など 【主体的に学習に取り組む態度】p.20～21など各章の「学習のはじめに」、p.287～291「歴史学習の終わりに ～歴史を振り返って、未来を構想しよう～」など
●生徒が自ら積極的に「見方・考え方」をはたらかせて、主体的・対話的で深い学びを実現するために、どのような配慮がなされているか。	●「歴史的な見方・考え方」の視点や方法については、冒頭の「歴史にアプローチ」で小学校からの接続もふまえて明示され、本編各章の学習で「見方・考え方」に留意して、それをはたらかせながら学習を深めていけるように配慮されている。本時ページでは、「歴史の技」や「THINK!」、資料解説に付随した「Q」などの問いや、各時間の最後に設けた「表現」のコーナー、各章末の「学習のまとめと表現」の中の問いなどで、問いへの考察に際して「見方・考え方」を活用できるように工夫されている。 ●授業の導入の場面では、生徒の興味・関心が高まるような、写真・図版などの資料をわかりやすく提示することで、円滑に授業に入っていくことができるように工夫されている。加えて、生徒にとって親しみやすい中学生や教師のキャラクターが登場し、気づきや問い、学習の手がかりなどが示唆されている。学習者の視点を取り入れることで、共感しながら学びに取り組めるように工夫されている。 ●本時ページのタイトルには、学習内容を象徴する主題と、学習事項を表す副題をおき、併せて「学習課題」を明示することで、生徒が課題意識を明確にすることができるよう配慮している。「学習課題」から展開していく問題解決的な学習の流れが重視され、その流れに沿って効果的な教材や資料が掲載され、学習意欲の喚起が図られるように構成されている。 ●授業のはじめに位置付けた「学習課題」を受けて、資料の読み解きのために適宜設けられている「THINK!」などのコーナーや、1時間の学習の最後に位置付く「確認／表現」のコーナーの「問い」に取り組むことで、生徒が自ら学び、自ら考える学習が展開できるように配慮されている。この「確認／表現」のコーナーでは、学習したことをもとに「確かめよう」・「まとめよう」や、「説明しよう」・「話し合おう」などの課題が多く設定され、知識・理解の確認や表現活動を行うことで1時間の学習を振り返ることができ、加えて、自分の意見が他者との交流を経てさらに深まっていくように配慮されている。 ●特に歴史的分野では、本時ページの「確認／表現」や章末の「学習のまとめと表現」に、グループによる学習活動がバランスよく設置されている。教え合いや学び合いによる協働学習をもとに、多角的に理解したり考察を深めたりすることによって、新たな知識の習得や生徒の学習意欲を向上させる工夫が図られている。

観点

『中学社会 歴史』の特色と具体例

● 公民としての資質・能力を効果的に培うことを意図した、学習してきたことを根拠に自分なりの考えを表現し合う「選択・判断」や「考察・構想」の学習場面については、学習のねらいに即し、無理なく取り組めるように設置されている。特に、歴史的分野においては、歴史学習のまとめとして位置付けられた「歴史学習の終わりに ～歴史を振り返って、未来を構想しよう～」において、課題解決の提案を行い、社会に向けて発信と対話を続けていく活動を扱っている。 →p.Ⅱ「教科書の使い方」、p.8～11「歴史にアプローチ」、p.22～23「学習課題」・「確認／表現」など各時、p.23「歴史の技：地図を読み解こう」など各所、p.26-資料3「Q」など各所、p.75「THINK!」など各所、p.287～291「歴史学習の終わりに ～歴史を振り返って、未来を構想しよう～」など	● 歴史的分野では各章に「歴史を探ろう」と「身近な地域の歴史を調べよう」の2種類の特設ページが設けられており、通史学習で理解した内容を視点を変えて捉えなおし、考察がよりいっそう深まるように構成されている。また、本時ページ中にもコラム「歴史の窓」が設けられ、歴史を多面的・多角的に考察・理解することができるように工夫が図られている。 ● 歴史上の多様な人物を取り上げ、各時代におけるさまざまな考え方や、対立などについて理解し、考察できるように配慮されている。 ● 巻末には学習資料として「昔の国と、都道府県の対照図」や「歴史年表」、「世界地図の歴史」などの資料が掲載され、生徒の理解を支援できるよう配慮されている。 →p.88～89「特設ページ：働く女性や子どもたち」、p.159「歴史の窓：ペリーの那覇・函館寄港」、巻末1「昔の国と、都道府県の対照図」、巻末2～3「歴史年表」、巻末4「世界地図の歴史」など
● 見通し・振り返りがどのように意識され、どのように位置付けられているか。	● 章ごとの「内容のまとめり（単元）」をふまえ、各章の導入の「学習のはじめに」ページでは、資料を活用しながら、これから学習する章全体の内容を見通せるよう配慮されている。それと対応する各章末の「学習のまとめと表現」では、図や語句を用いて整理する活動、章全体を貫く「問い」に応答する活動を通して各章の学習をまとめながら、「歴史的な見方・考え方」をはたらかせ、課題を追究したり解決したりすることができるよう工夫されている。さらに、「学習のまとめと表現」STEP②の資料と次章のとびらページに設けた「時代の変化に注目!」を比較することで、時代の移り変わりを意識しながら、次の章の学習への接続が図れるよう構成されている。 →p.20～21「第2章の学習のはじめに」・p.56～58「第2章の学習のまとめと表現」など各章、p.59「第3章のとびら」など各章

社会的課題

● 人権教育・福祉教育に関して、どのように配慮されているか。	● 日本国憲法や教育基本法に示される「人間尊重の精神」に基づき、差別や人権確立の歴史、人権をめぐる現状と課題についての考察を通して、すべての人の権利が守られる、差別のない「ともに生きる・ともに創る」社会の実現を追求する力が養われるように配慮されている。また、同和教育に関しても、同和問題の歴史的・科学的な認識が深まるように配慮され、人権保障や問題解決に向けた努力の必要性が強調されている。特に歴史的分野では、人権確立の歩みとともに、女性やアイヌ民族・沖縄がおかれていた立場について理解を深めることができるように留意されている。 →p.80～81「琉球王国とアイヌ民族」、p.87「庭園造りに活躍した人々」、p.125「身分による差別」、p.164「三閉伊一揆・波染一揆」、p.167「身分制度の改革」、p.174～175「国境の明確化と北海道・沖縄県」、p.220～221「女性解放運動、水平社宣言」など
● 環境教育など“持続可能な社会”の形成、SDGs（持続可能な開発目標）の視点に関して、どのように配慮されているか。	● 「歴史学習の終わりに ～歴史を振り返って、未来を構想しよう～」では、それまでの歴史学習をふまえて、現代の課題を考察し、未来を構想する学習の中で、SDGsの観点から考えることもできるように構成されており、公民の学習への接続も図られている。 ● 3分野を通じて、自然環境と自分たちとの関わりや、環境保全の重要性について多面的・多角的に考察し、理解を深める学習活動が重視されている。「地球規模で考え、足元から行動する」観点が強調され、廃棄物の減量やリサイクルをはじめとする循環型社会への転換を追求する教材が積極的に取り上げられ、環境保全のために自ら行動できる力が養われるように配慮されている。特に歴史的分野では、日本の公害問題の原点といわれる足尾鉾毒事件や、高度経済成長の時代に社会問題となった公害などについて取り上げ、環境保全への取り組みの歴史的背景について理解を深めるとともに、「江戸の水／リサイクルの知恵」の事例からエコやリサイクルなど持続可能な社会の形成について歴史的な視点から考察を深められるよう配慮されている。 →p.139「江戸の水／リサイクルの知恵」、p.197「足尾鉾毒事件」、p.268～269「豊かな国民生活と公害」、p.287～291「歴史学習の終わりに ～歴史を振り返って、未来を構想しよう～」など
● 国際理解教育に関して、どのように配慮されているか。	● 3分野を通じて、外国(人)との交流や地域の国際化、世界の多様な文化・宗教などの事例が豊富に取り上げられている。国籍や文化・習慣の違いを超えて相互に理解・尊重し合う必要性が強調され、国際社会に生きる日本人として「ともに生きる・ともに創る」社会の実現を追求する力が養われるように配慮されている。歴史的分野では、とりわけ中国や韓国などの東アジア地域と日本との歴史的交流や、残された課題について詳しく取り上げ、これらからのような関係を築き、その解決を目ざしていくべきか考察を深められるように留意されている。 →p.36～37「東アジアの中の大和政権」、p.78～79「東アジア世界の交流」、p.120～121「海外に開かれた窓口」、p.274～275「民主化のうねりと国際社会の変化」など
● 平和教育に関して、どのように配慮されているか。	● 3分野を通じて、先の世界大戦がもたらした惨禍や冷戦の影響、核兵器廃絶への取り組みをはじめ、現代の地域紛争や国際テロなどの問題について理解が深まるように配慮され、平和を希求することの意義が強調されている。特に歴史的分野では、人類の生命に対する脅威である核兵器の開発の歩みや被害、その廃絶に取り組む人々の姿を通して、非核三原則のもつ意義について考察を深められるように留意されている。また、平和を維持するために、戦争の記録や記憶を継承する取り組みについても取り上げるなど、生徒が共感的に学習できるよう配慮されている。 →p.244～245「軍国主義の敗北」、p.246～247「戦争の記憶をつなぐ」、p.261「平和条約をめぐって」、p.265「非核三原則」、p.281「平和を築くために」、p.282「平和と共生を願う人々」など
● 情報化・メディアリテラシーの進展に関して、どのように配慮されているか。	● 3分野を通じて、情報化の進展に伴う社会や生活の変化、情報の有効な活用について理解が深まるように配慮されている。特に歴史的分野では、絵画や文書などのさまざまな資料の読み取りや、博物館・資料館やインターネットを活用した調べ学習を通して、収集した情報を多面的・多角的に分析し、自分の言葉で他者にわかりやすく伝える能力を養えるよう工夫されている。 →p.8～11「歴史にアプローチ」、p.12～18「身近な地域の歴史を調べよう」など

観点

『中学社会 歴史』の特色と具体例

● 地域(郷土)への愛着や持続可能な地域づくりに関して、どのように配慮されているか。	● 3分野を通じて、地域の歴史や現状、抱える課題などについて実地に調査し、理解を深める学習活動が重視されている。特に歴史的分野では、身近な地域の歴史を調べる学習が各所に設定されている。郷土の伝統と文化への関心を高める観点や学び方の手がかりについては、「地域調査の手引き」のコーナーで示され、学習に役立てることができるように構成されている。 →p.12～18「身近な地域の歴史を調べよう」、p.54～55「東北地方の歴史を調べよう」、p.90～91「中世の要塞都市を歩こう」、p.176～177「沖縄の歴史を調べよう」、p.178～179「北海道の歴史を調べよう」、p.224～225「建造物から時代の特徴を考えよう」、p.272～273「移り変わる戦後の街を訪ねて」など
● 社会への主体的な参画に関して、どのように配慮されているか。	● 3分野を通じて、地域社会での交流やボランティア活動に取り組む人々などの事例が積極的に取り上げられ、社会の形成者としての自覚と参画への意思が養われるように配慮されている。特に歴史的分野では、身近な地域を調べる学習について、地域・社会と関わり合いながら学習を進めていけるように構成されている。また、歴史学習の最後に、これからの社会を築いていくために、社会とどのように関わればよいのか考察する場面が取り入れられている。 →p.12～18「身近な地域の歴史を調べよう」、p.278～279「私たちの生きる時代へ」、p.280～281「世界の中の市民の一人として」、p.287～291「歴史学習の終わりに ～歴史を振り返って、未来を構想しよう～」など
● 伝統・文化や宗教に関して、どのように扱われているか。	● 3分野を通じて、地域の歴史的な歩みや人々の暮らしと密接に結びついた伝統・文化の多様性やその継承という観点から、多文化共生への理解と、郷土や日本への愛着を深める学習活動が重視されている。特に歴史的分野では、各時代の文化史の記述が充実しているほか、代表的な文化遺産が豊富に掲載され、世界遺産や国宝、重要文化財にはマークを付けて紹介することにより、その意義や継承について理解を深められるように留意されている。また、宗教に関しては、仏教・キリスト教・イスラム教などの主な宗教のおこりや変遷などのほか、古代の人々の信仰や神話・伝承についても取り上げ、多様な価値観に対する理解と寛容を育み、多文化共生社会を創造する態度を養うことができるように配慮されている。 →p.Ⅳ「マーク・表記の説明」、p.50～51「国風文化の誕生」、p.86～87「今につながる文化の芽生え」、p.128～129「花開く町人文化」、p.198～199「西洋文化と伝統文化」、p.30～31「宗教のおこりと広まり」、p.52～53「神話にみる古代の人々の信仰」、p.70～71「鎌倉文化と新しい仏教」、p.98～99「教会と「コーラン」の教え」など
● 防災教育に関して、どのように扱われているか。	● 3分野を通じて、自然災害と防災に関する現状と課題、これからのあり方についての理解と考察が深まるよう配慮されている。特に歴史的分野では、自然災害と防災、災害時の対応、復興の観点から、過去に発生した「関東大震災」の事例を通して、復興に対する人々の思いや工夫・努力について理解が深まるよう配慮されている。また、「阪神・淡路大震災」・「東日本大震災」などの自然災害に対して、過去の事例をふまえ、これからの自分たちのあり方を考えられるよう工夫されている。 →p.223「関東大震災」、p.236「先人が伝える地震の記録／関東大震災と後藤新平」、p.278～279「災害と向き合う」など
● 少子化・高齢化をめぐる問題に関して、どのように扱われているか。	● 3分野を通じて、少子高齢化が急激に進む我が国の現状とともに、増え続ける世界人口に対する我が国の人口減少など、地球規模の人口問題に対する理解が深まるように配慮されている。特に歴史的分野では人口の視点で歴史を振り返りながら、その特徴と背景を探るとともに、今後の人口変化を予想させる活動などを通して、多角的な理解が深まるように工夫されている。 →p.200～201「人口の変化と海外への移民」、p.280「社会の変化の中で」など
● 領土をめぐる課題に関して、どのように扱われているか。	● 3分野を通じて、日本の領土（領海、領空を含む）をめぐる昨今の動きや課題が、学習指導要領に基づいて適切に記載され、学習内容に応じて的確に取り上げられている。特に歴史的分野では、北方領土問題の歴史的経緯が詳しく記述されているほか、竹島や尖閣諸島の領有をめぐる昨今の動きについても記載されている。 →p.174～175「形づくられる日本国家」、p.261「北方領土」、p.266～267「隣国と向き合うために」など

教育のICT化への対応

● 教育のICT化に対応した内容や教材が設けられているか。	● タブレット型端末などICT機器の多様な活用例を、学習内容に応じて写真やイラスト、動画などで紹介している。 ● 教科書の紙面に印刷された二次元コードから、生徒自身が学習に活用できる動画、ワークシート、クイズ式教材、安全で公正な外部リンクサイトなど、多様なデジタル・コンテンツにアクセスできるようにしている。豊富な資料を、先生が適宜利用できるコンテンツサイトも設置している。 ● 学習者用デジタル教科書と教材、教科書に準拠した指導者用デジタル教科書（教材）を発行し、動画などの各種コンテンツや機能を搭載している。 ● 教科書に完全準拠した教師用指導書(セット)には、評価問題やワークシートなどの編集可能なデジタル・コンテンツを収録している。 →p.19「第2章のとびら」・p.56「第2章の学習のまとめと表現」など各章、p.13「歴史の技」など各所、p.287～291「歴史学習の終わりに ～歴史を振り返って未来を構想しよう～」など
-------------------------------	--

印刷・製本

● 印刷の仕上がりは、鮮明で見やすいか。	● 文字や図版など資料の印刷は鮮明で、色彩もビジュアル性が高い。特に、写真の発色がきれいで、統計資料も読み取りやすい。
● 本の造りは使いやすいか。また、環境への配慮はなされているか。	● 複数年の使用に耐えうる堅固な製本で、装丁にも汚れにくい加工が施されている。造本上も、各ページがより開きやすい緩じ方を採用したことから、紙面スペースも広くなり資料性が高まっている。表紙は、歴史的分野の学習内容に関連した写真で構成され、明るく魅力的である。また、印刷には、再生紙と植物油インキが使用され、環境への負荷を軽減するように配慮されている。 →表紙、裏表紙

◆教育基本法との対応

【歴史的分野】

教育基本法第2条	特に意を用いた点や特色	具体例
第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	●「私たちと歴史」では、小学校で学習した人物や文化財を振り返りながら、人類の歴史への関心を高められるように構成しました。	●p.2～7
	●「歴史にアプローチ」では、小学校での学習を振り返りながら、歴史学習の進め方や活用する見方・考え方について見通せる構成にし、その後の学習を主体的に進めていくことができるように工夫しました。	●p.8～11
	●「身近な地域の歴史を調べよう」では、地域調査の手法として、図書館やインターネットの活用、レポート作成や発表の技能を身に付け、主体的に調査学習を行えるように構成しました。	●p.12～18、54～55、90～91、176～177、178～179、224～225、272～273
	●各章の学習の初めに設けた「とびら」と「学習のはじめに」では、大きく掲載した資料の読み解きを通じて、これから学習する時代を概観できるように工夫しました。	●p.19～21、59～61、95～97、143～145、205～207、251～253
	●各章末には「学習のまとめと表現」を設け、学習内容を振り返って整理し思考・判断・表現する活動を通じて、時代を大観し、その特色を多面的・多角的に捉えられるように構成しました。	●p.56～58、92～94、140～142、202～204、248～250、284～286
	●本時ページの各見開きでは、学習のめあてとなる「学習課題」と、それに対応して学習を振り返る「確認・表現」を設け、生徒が話し合いなどの対話的・協働的な学習に取り組み、学習内容を深く理解できるように工夫しました。	●全ての本時ページ
	●各章の特設ページでは、学習してきた内容を、視点を変えて捉えなおすることができるテーマを設定し、歴史を多面的・多角的に考察し、理解を深めることができる構成にしました。	●p.52～53、88～89、106～107、116～117、138～139、156～157、164～165、200～201、236～237、246～247、266～267、282、283
第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	●本時ページの各見開きに設けた「確認・表現」や、各章末の「学習のまとめと表現」には、自分の言葉で説明するなどの表現活動を効果的に取り入れ、思考・判断・表現する力を身に付けられるように工夫しました。	●全ての本時ページ、p.56～58、92～94、140～142、202～204、248～250、284～286
	●「歴史の技」や「THINK!」などのコーナーを適宜設けて、資料の読み解きを促し、資料活用の技能を身に付けるとともに、学習内容をより深く理解することができるように工夫しました。	●p.25、133、169、186ほか
	●各時代の多様な人物を取り上げ、社会の変化と人々の生活・職業との関わりなど、時代像と個人の生き方について考察を深められるように構成しました。	●p.60～61、82～83、164～165、176～177、178～179
	●本文や注などの文章には、見やすく読み間違えにくいユニバーサルデザインフォント(UDフォント)を使用し、また図やグラフなどの表現には、色覚の個人差を問わずより多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザイン(CUD)を取り入れるなど、すべての生徒が学習しやすいように工夫しました。	●全編、p.283
第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	●すべての人の権利が守られる差別のない社会を実現していくために、特に女性やアイヌ民族、沖縄がおかれていた立場について考察を深められるように内容構成を工夫しました。	●p.80～81、87、88～89、122～123、125、157、174～175、176～177、178～179、265、280～281
	●異なる立場や考えの人々をともに記述し、さまざまな立場から歴史を考え、多面的・多角的に理解することができる構成にしました。	●p.54～55、82～83、103、106～107、124～125、166～167、254～255
	●歴史学習をふまえて、現在・未来の日本や世界について考察・表現する内容を充実させ、主体的に社会に参画しようとする態度を養うことができるように工夫しました。	●p.280～281、287～291
第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。	●自然災害への支援や復興の取り組み、国際支援の様子など、社会の形成に参画するさまざまな人々の姿を取り上げ、生命を尊び、自然とともに生きる態度を養うことができる構成にしました。	●p.236～237、246～247、278～279、280～281、282
	●日本の公害問題の原点ともいわれる足尾鋳毒事件などを取り上げ、環境保全への取り組みの歴史的背景について理解を深められる構成にしました。	●p.197、268、271、291
第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。	●日本の代表的な文化財を豊富に掲載し、世界遺産や国宝、重要文化財にマークを付けて紹介することで、伝統文化の意義や継承への理解を深められるように工夫しました。	●p.IV、33～37、41、44、46～47、50～51ほか
	●各時代の文化については、その背景となる当時の政治・国際関係・社会・経済などとの関連をわかりやすく記述し、我が国と諸外国との交流の歴史や、文化を形成し守り伝えてきた人々の営みについても理解を深められるように工夫しました。	●p.36～37、40～41、120～121、136～137
	●「身近な地域の歴史を調べよう」では、地域の文化財や文化施設を多数取り上げ、地域の歴史や伝統・文化に対する興味・関心を高めるとともに、郷土を大切にする態度を養うことができる構成にしました。また、学校外で活動する際に留意すべきマナーも身に付けられるように工夫しました。	●p.12～18、54～55、90～91、176～177、178～179、224～225、272～273
	●日本の近代化や国際的地位の向上、日本とアジア地域との交流や軋轢の歴史、現在までの平和を希求する動きなどを丁寧に取り上げ、これから日本が国際社会の中でどのような関係を築き、課題の解決を目指していくべきかを考察を深められるように工夫しました。	●p.184～185、192～193、216～217、240～241、246～247、280～283
	●日本の領土をめぐる課題について、領土を画定してから現代にいたる歴史的な経緯を、本時ページや特設ページで丁寧に記述し、理解を深められるように工夫しました。	●p.174～175、260～261、264～265、266～267

◆ 歴史的分野の重点項目とその系統

章	人権確立の歴史、民主政治の来歴	地域の歴史	人々の生活、社会・経済
第2章 原始・古代の 日本と世界	古代ギリシャの民主政と奴隷制 (p.28) 古代ローマの共和政と帝政 (p.29) 貧富の差と身分の区別の発生 (p.35) 律令国家の成立 (p.43) 律令制での良民と賤民 (p.44～45) 藤原氏の摂関政治 (p.48～49) 坂上田村麻呂と阿弖流為の戦い (p.55)	飛鳥文化[奈良県](p.41) 三内丸山遺跡[青森県](p.54) 秋田街道絵巻[秋田県](p.54) 北前船で栄えた本間家の屋敷[山形県](p.54) 坂上田村麻呂と阿弖流為の戦い [岩手県・宮城県など](p.55)	縄文時代の暮らし (p.32～33) 弥生時代の暮らし (p.34～35) 律令制のもとでの暮らし (p.44～45)
第3章 中世の日本と 世界	院政から武家政権へ (p.64～67) 地頭を訴える農民 (p.69) 蝦夷地とアイヌ民族 (p.80～81) 正長の土一揆と、その碑文 (p.84) 庭園づくりに活躍した人々 (p.87) 中世の女性や子どもの地位 (p.88～89)	奥州藤原氏と平泉[岩手県](p.63) 琉球王国の成立[沖縄県](p.80) オホーツク文化と擦文文化[北海道](p.81) 室町文化[京都府](p.86～87) 中世の要塞都市を歩こう[神奈川県](p.90～91) 中世の要塞都市を歩こう[神奈川県](p.90～91)	武士の暮らし (p.68) 民衆と農業・商業 (p.69) 町の自治 (p.82～83) 村の自治 (p.83) 民衆に広まる文化 (p.87) 働く女性や子どもたち (p.88～89)
第4章 近世の日本と 世界	ヨーロッパ諸国の世界進出、植民地 (p.102～103) 兵農分離 (p.110～111) 島原・天草一揆 (p.119) シャクシャインの蜂起 (p.123) 武士と百姓・町人 (p.124) 身分による差別 (p.125) 百姓一揆と打ちこわし (p.131) 大塩平八郎の乱 (p.135)	「銀の島」日本、石見銀山[島根県] (p.106～107) 江戸時代の国際関係[長崎県・鹿児島県・沖縄県・北海道](p.120～121) 琉球王国と薩摩藩[沖縄県](p.122) アイヌ民族と松前藩[北海道](p.123) 野國總管と青木昆陽[沖縄県など](p.131) 人口100万都市「大江戸」の暮らしの工夫[東京都](p.138～139)	禁教と貿易の制限 (p.118～119) 村・町に住む人々の暮らし (p.124～125) 経済の発達と都市の繁栄 (p.126～127) 元禄文化と暮らしの変化 (p.128～129) 貨幣経済の広まり (p.130～131) 変動する社会と民衆の闘い (p.134～135) 地方の文化と教育 (p.137) 人口100万都市「大江戸」の暮らしの工夫 (p.138～139)
第5章 日本の近代化 と国際社会	イギリスの名誉革命 (p.146～147) アメリカ合衆国の独立 (p.148) フランスの人権宣言 (p.149) ヨーロッパでの参政権の拡大 (p.151) 国民の権利と女性 (p.157) 世直しへの願い (p.162) 三閉伊一揆 (p.164)、渋染一揆 (p.135、164) 身分制の廃止と、残された差別 (p.167) 北海道の開拓とアイヌ民族 (p.174～175) 琉球処分と琉球の人たち (p.175) 自由民権運動と政党の誕生 (p.180～181) 大日本帝国憲法の発布 (p.182～183)、民法 (p.183) 社会問題の発生 (p.196～197)	ペリーの那覇・函館寄港[沖縄県・北海道] (p.159) 開港翌年の横浜のにぎわい[神奈川県](p.160) 三閉伊一揆[岩手県](p.164) 渋染一揆[岡山県](p.164) 坂本龍馬[高知県](p.164) 夢の浮き橋[山形県](p.165) 富岡製糸場[群馬県](p.170) 北海道の開拓とアイヌ民族[北海道] (p.174～175) 琉球処分と琉球の人たち[沖縄県](p.175) 沖縄の歴史を調べよう[沖縄県](p.176～177) 北海道の歴史を調べよう[北海道](p.178～179) 土族の反乱[佐賀県・鹿児島県など] (p.180～179) 足尾鉾毒事件[栃木県・群馬県など](p.197)	開国の影響 (p.160) 社会不安と世直しへの願い (p.162) 富国強兵の諸改革 (p.168～169) 殖産興業と文明開化 (p.170～171) 民法と「家」の制度 (p.183) 戦争と国民生活 (p.190～191) 日本の産業革命 (p.194～195) 社会問題の発生 (p.196～197)
第6章 二度の世界大 戦と日本	アジアの民族運動 (p.216～217) 護憲運動 (p.218)、民本主義 (p.218～219) 米騒動 (p.219) 本格的政党内閣の成立 (p.219) 社会運動の高まりと男子普通選挙の実現 (p.220～221) 発行された命のビザ (p.247)	関東大震災[東京都など](p.223) 建造物から時代の特色を考えよう[愛知県] (p.224～225)、志段味大塚古墳[愛知県](p.225) 関東大震災と後藤新平[東京都など](p.236) 戦場となった沖縄[沖縄県](p.244) 戦争の記憶をつなぐ[広島県・沖縄県・長崎県](p.246～247)	大戦景気 (p.210～211) 財閥と日本の経済発展 (p.211) 米騒動 (p.219) 社会運動の高まり (p.220～221) 都市の発展と大衆文化 (p.222～223) 経済の混乱 (p.228) 戦時体制と国民生活の統制 (p.234～235) 戦況の悪化と国民生活 (p.242～243)
第7章 現代の日本と 世界	民主化政策の始まり (p.254～255) 日本国憲法の公布と諸改革 (p.256～257) 原水爆禁止運動 (p.261) 公害の増加 (p.269) 平和を築くために (p.281)	沖縄の本土復帰[沖縄県](p.265) 日本の領土をめぐる課題 [北海道・島根県・沖縄県](p.266～267) 移り変わる戦後の街を訪ねて[神奈川県] (p.272～273) 広島で開催される平和記念式典[広島県](p.280) 平和と共生を願う人々 [東京都・静岡県・広島県・長崎県](p.282)	戦後の国民生活 (p.255) 財閥解体と農地改革 (p.257) 豊かな国民生活と公害 (p.268～269) マスメディアの発達と戦後の文化 (p.270～271) バブル経済とその影響 (p.276) 21世紀の日本 (p.278～279) 平和と共生を願う人々 (p.282)

日本の多様な伝統・文化	世界との関わり、平和	人物の紹介
縄文文化と弥生文化 (p.32～35) 飛鳥文化 (p.41) 天平文化 (p.46～47) 国風文化 (p.50～51) 神話にみる古代の人々の信仰 (p.52～53) 最澄と空海、菅原道真 (p.50)	メソポタミア文明・エジプト文明・インダス文明・中国文明、ギリシャ・ローマ (p.24～29) 宗教のおこりと文明 (p.30～31) 遣隋使 (p.40～41) 遣唐使 (p.46)	聖徳太子 (p.40) 鑑真 (p.46) 行基 (p.46) 藤原道長 (p.49) 坂上田村麻呂、阿弖流為 (p.55)
鎌倉文化 (p.70) 新しい仏教 (p.70～71) 琉球王国 (p.80) オホーツク文化と擦文文化 (p.81) 室町文化 (p.86～87) 法然、親鸞、一遍、日蓮、栄西、道元 (p.71) 足利義政 (p.86)、雪舟 (p.87)	日宋貿易 (p.65) 大陸をまたぐモンゴル帝国 (p.72～73) 一つになるユーラシア世界 (p.73) 海から押し寄せる元軍 (p.74～75) 勘合貿易 (p.79)	平清盛 (p.64)、源頼朝 (p.65) 北条政子 (p.66)、後鳥羽上皇 (p.67) チンギス=ハン、フビライ=ハン (p.72) 後醍醐天皇 (p.75)、足利尊氏 (p.75)、足利義満 (p.77) 今川義元、上杉謙信、島津貴久、武田信玄 (p.85)
キリスト教の伝来 (p.104～105) 南蛮文化と桃山文化 (p.112～113) 琉球の文化 (p.122)、アイヌ民族の文化 (p.123) 元禄文化 (p.128～129) 伊能忠敬と伊能図 (p.136) 学問の広まりと化政文化 (p.136～137) 千利休 (p.112) 松尾芭蕉 (p.129)	教会と『コーラン』の教え (p.98～99) ルネサンスと宗教改革 (p.100～101) ヨーロッパ人の大航海 (p.102～103) 鉄砲とキリスト教の伝来 (p.104～105) 南蛮貿易 (p.105) 大海を越える人と物 (p.106～107) 秀吉の外交と朝鮮侵略 (p.111) 朱印船貿易と日本町 (p.118) 江戸時代の国際関係 (p.120～121) 外国船の接近 (p.134)	コロンブス、バスコ=ダ=ガマ、マゼラン (p.102) フランシスコ=ザビエル (p.104) 天正遣欧使節 (p.105) 織田信長 (p.108)、豊臣秀吉 (p.109) 徳川家康 (p.114) シャクシャイン (p.123) 徳川吉宗 (p.130)、二宮尊徳、野國總管、青木昆陽 (p.131) 田沼意次、松平定信 (p.132)、間宮林蔵 (p.134) 大塩平八郎、水野忠邦 (p.135)
殖産興業と文明開化 (p.170～171) 沖縄の文化 (p.176～177) アイヌ民族の文化 (p.178～179) 明治時代の教育と文化 (p.198～199) 伊波普猷 (p.177)、知里幸恵、金田一京助 (p.179) 与謝野晶子 (p.190) 野口英世、北里柴三郎、樋口一葉、夏目漱石、正岡子規、黒田清輝、横山大観、高村光雲、滝廉太郎 (p.199)	イギリスの革命 (p.146～147) アメリカの独立革命とフランス革命 (p.148～149) イギリスの産業革命 (p.150) 近代化と列強の成立 (p.153) アジアの植民地化と抵抗 (p.154～155) ペリーの来航と開国 (p.158～159) 新しい国際関係の確立 (p.172～173) アジアに迫る列強 (p.184～185) 日清戦争と三国干渉 (p.186～187) 義和団事件と日英同盟 (p.188～189) 日露戦争とその影響 (p.190～191) 韓国併合と中華民国の成立 (p.192～193) ハワイ・ブラジルへの移民 (p.201)	エリザベス1世、クロムウェル (p.146) ルイ14世、ロック、モンテスキュー、ルソー (p.147) ワシントン (p.148)、ナポレオン (p.149) マルクス (p.151) リンカン (p.152)、ナイティンゲール (p.153) ペリー (p.158) 吉田松陰 (p.160)、高杉晋作、木戸孝允、坂本龍馬 (p.161) 明治天皇 (p.162)、徳川慶喜、西郷隆盛、勝海舟 (p.163) クラーク (p.170)、福沢諭吉 (p.171) 岩倉具視、津田梅子 (p.172) 大久保利通 (p.173)、尚泰 (p.175)、板垣退助 (p.180) 大隈重信 (p.181)、伊藤博文 (p.182) 八田與一 (p.187) 東郷平八郎 (p.190)、孫文 (p.193) 渋沢栄一 (p.194)、豊田佐吉 (p.195)、田中正造 (p.197)
文化の大衆化 (p.222～223) 新しい学問と文学・芸術 (p.223) 建造物から時代の特色を考えよう (p.224～225) 芥川龍之介、小林多喜二 (p.223)	第一次世界大戦と日本の参戦 (p.210～211) 新しい国際体制と民主主義の広がり (p.214～215) 世界恐慌とファシズムの台頭 (p.226～227) 満州事变から国際連盟脱退へ (p.230～231) 軍国主義の高まりと日中戦争 (p.232～233) 太平洋戦争の始まり (p.240～241) 第二次世界大戦の終結 (p.244～245) 戦争の記憶をつなぐ (p.246～247)	レーニン (p.212)、ウィルソン (p.213) 新渡戸稲造 (p.215) ガンディー、柳宗悦 (p.217) 吉野作造、美濃部達吉 (p.218)、原敬 (p.219) 平塚らいてう (p.220) フランクリン=ローズベルト (p.226)、ヒトラー (p.227) 犬養毅、石橋湛山 (p.231) 後藤新平 (p.236) アンネ=フランク、チャーチル (p.239) 杉原千畝、根井三郎 (p.247)
国民生活の変化 (p.268) マスメディアの発達と戦後の文化 (p.270～271) 社会の変化の中で (p.280) 湯川秀樹、美空ひばり (p.270)、手塚治虫 (p.271)	連合国軍の日本占領 (p.254) 新しい中国と朝鮮戦争 (p.259) 独立の回復と国際社会への復帰 (p.260～261) 安保改定と国交正常化 (p.264～265) 冷戦終結後の世界 (p.274～275) アジアの成長と課題 (p.277) 世界の中の市民の一人として (p.280～281)	マッカーサー、昭和天皇 (p.254) 吉田茂 (p.261) 岸信介、毛沢東、周恩来 (p.264)、田中角栄 (p.265) ブッシュ、ゴルバチョフ (p.274)

◆単元構成と時間配当 [歴史的分野 総配当時数 135]

✓ 中学校社会科教科書『中学社会 歴史 未来をひらく』の構成は、次の点を重点的にリニューアルしました。

- 第1章を充実させ、生徒の歴史学習への興味・関心を喚起します。
→ 小学校での学習との接続も意識し、歴史の学び方・調べ方を確実に身に付けられるように工夫しました。
- 主体的に通史学習を進め、思考・判断・表現する場面を通じて時代を大観できます。
→ 各章の導入「学習のはじめに」や章末「学習のまとめと表現」を新設・充実させました。

教科書の単元配列	配当時数	学習指導要領の内容	該当箇所	指導時期	
				学年	月
第1章 歴史のとらえ方・調べ方	[6]		p.2		
1節 私たちと歴史	3	A (1)	p.2～11	1	5
2節 身近な地域の歴史を調べよう	3	A (2)	p.12～18	1	5
第2章 原始・古代の日本と世界	[18]		p.19		
第2章の学習のはじめに	1	B (1)	p.20～21	1	5
1節 人類の出現と文明のおこり	5	B (1)	p.22～31	1	5-6
2節 日本の成り立ちと倭の王権	3	B (1)	p.32～37	1	6
3節 大帝国の出現と律令国家の形成	3	B (1)	p.38～43	1	6
4節 貴族社会の発展	4	B (1)	p.44～55	1	6-7
学習のまとめと表現	2	A (1)、B (1)	p.56～58	1	7
第3章 中世の日本と世界	[16]		p.59		
第3章の学習のはじめに	1	B (2)	p.60～61	1	11
1節 武家政治の始まり	5	B (2)	p.62～71	1	11
2節 ユーラシアの動きと武家政治の変化	5	B (2)	p.72～81	1	11
3節 結びつく民衆と下剋上の社会	3	B (2)	p.82～91	1	11-12
学習のまとめと表現	2	A (1)、B (2)	p.92～94	1	12
第4章 近世の日本と世界	[21]		p.95		
第4章の学習のはじめに	1	B (3)	p.96～97	1	2
1節 結びつく世界との出会い	4	B (3)	p.98～107	1	2
2節 天下統一への歩み	3	B (3)	p.108～113	1	2-3
3節 幕藩体制の確立と「鎖国」	5	B (3)	p.114～125	2	4
4節 経済の成長と幕政の改革	6	B (3)	p.126～139	2	4-5
学習のまとめと表現	2	A (1)、B (3)	p.140～142	2	5
第5章 日本の近代化と国際社会	[26]		p.143		
第5章の学習のはじめに	1	C (1)	p.144～145	2	10
1節 近代世界の確立とアジア	5	C (1)	p.146～157	2	10
2節 開国と幕府政治の終わり	3	C (1)	p.158～165	2	10-11
3節 明治維新と立憲国家への歩み	7	C (1)	p.166～183	2	11
4節 激動する東アジアと日清・日露戦争	5	C (1)	p.184～193	2	11-12
5節 近代の産業と文化の発展	3	C (1)	p.194～201	2	12
学習のまとめと表現	2	A (1)、C (1)	p.202～204	2	12
第6章 二度の世界大戦と日本	[20]		p.205		
第6章の学習のはじめに	1	C (1)	p.206～207	3	4
1節 第一次世界大戦と民族独立の動き	5	C (1)	p.208～217	3	4
2節 大正デモクラシー	3	C (1)	p.218～225	3	4
3節 恐慌から戦争へ	5	C (1)	p.226～237	3	5
4節 第二次世界大戦と日本の敗戦	4	C (1)	p.238～247	3	5
学習のまとめと表現	2	A (1)、C (1)	p.248～250	3	5
第7章 現代の日本と世界	[15]		p.251		
第7章の学習のはじめに	1	C (2)	p.252～253	3	5
1節 日本の民主化と冷戦	4	C (2)	p.254～261	3	5-6
2節 世界の多極化と日本	4	C (2)	p.262～273	3	6
3節 冷戦の終結とこれからの日本	4	C (2)	p.274～283	3	6
学習のまとめと表現	2	A (1)、C (2)	p.284～286	3	6
歴史学習の終わりに ～歴史を振り返って、未来を構想しよう～	3	C (2)	p.287～291	3	6
江戸時代の産業と交通／昔の国と、都道府県の対照図			巻末1		
歴史年表			巻末2～3		
世界地図の歴史			巻末4		
各地の主な遺跡・史跡・できごと			巻末5～6		
	計125 (予備10)				